

スポーツと地域活性化

■サッカーキャンプ

先日開催されたサッカーワールドカップでの日本代表チームの奮闘は私たちに大きな感動を与えてくれました。目標には到達しなかったものの、長年にわたる取り組みが着実に実を結んできていることを実感できる大会だったと思います。

同じ頃にかほ市では二つのサッカーキャンプが行われました。一つはデフサッカー男子日本代表候補チームによる強化合宿、もう一つはJ2藤枝MYFCによる強化トレーニングのための短期キャンプです。

■デフサッカー男子日本代表候補チーム

6月10日から16日の1週間、TDK-ASCサッカー場を会場にデフサッカー男子日本代表候補合宿が行われました。昨年東京で開催されたデフリンピックで、多くの人が「デフ（deaf）」という言葉を知ったと思います。「デフ」とは「聴覚障がい」を意味し、デフサッカーとは、音が聞こえづらい、あるいは聞こえない人によるサッカーのことを言います。

全国から集まった選手の多くは、ふつうに会社などに勤めながら、地域のクラブチームなどに所属し、高いレベルでサッカーを続けている人たちです。実際の彼らの練習や試合を見てみると、音が聞こえづらいからこそ常に大きな声を出し、大きな身振り手振りでコミュニケーションをとる、全員で不便さを克服するため、練習を頑張っていることがわかります。練習

習試合相手の大学や高校のサッカー部の皆さんもたぶんサッカーの技術とは違ったところでも多くの学びを得たのではないかと思います。

■藤枝MYFC

6月30日から7月5日の6日間、仁賀保グリーンフィールドを会場にJ2藤枝MYFCの夏季1次キャンプが行われました。初日から多くの人が練習風景の見学に訪れていました。また、ブラウブリッツ秋田とのプレシーズンマッチには2千人を超える人々が観戦に訪れ、予想していた以上の賑わいを見せていました。特に、13年ぶりの仁賀保グリーンフィールドでの試合となったブラウブリッツ秋田にとっては、成長した姿を披露する「凱旋」になったのではないかと思います。私としては、そんな試合を皆さんに感じてもらえたこと、さらには藤枝MYFCが秋田にゆかりのあるチームになってくれたことをとてもうれしく思います。そして、これをきっかけに藤枝MYFCとブラウブリッツ秋田が、ともに切磋琢磨しながらJ1に上っていくことを大いに期待しているところです。

■地域活性化の一助として

地域活性化には関係人口を増やすことが大切です。「関係人口」は「観光以上移住未満」と言われたりします。それは関係人口となる人たちが、その地域に愛着を持ち、祭りやイベントに積極的に参加してくれたり、ボランティアとして協力してくれたり、あるいはふるさと納税

などで経済的な応援をしてくれたり、さらには「二地域居住」にて何度となく行き来してくれたりするなど、さまざまな角度から地域との関係を築いていくからです。そして、この関係人口によって地域活性化を目指すとき、スポーツが有効な手段の一つとして大きな力を発揮します。特に、スポーツ合宿には大きな効果が期待できます。

市では、これまでもさまざまなスポーツ合宿を受け入れてきました。特に、この地域は春の訪れが早いことから、3月末からグラウンドを使用した合宿が可能です。実際、令和7年度だけを見てみても、6競技、延べ955人の方々がスポーツ宿泊センターを利用しています。これに市内の民間宿泊施設を利用しながらのスポーツ合宿も合わせれば実数はさらに大きなものとなります。

今回の2つのサッカーキャンプでは、それぞれで子供サッカー教室を開いたり、トレーニングマッチやプレシーズンマッチを開催したりと、さまざまな形で地域住民と交流する機会が設けられました。まさに、スポーツを通じた関係人口の創出と地域活性化の可能性を感じる機会になったと思っています。



にかほ市長
市川雄次

